

北は小坂町、南は湯沢市まで秋田県の元気な集落の情報満載!!

元気ムラ通信 9号

元気ムラ通信は秋田県活力ある集落づくり支援室が運営する「秋田県のがんばる農山漁村集落応援サイト(通称:元気ムラ応援サイト)」で紹介している地域活動を、より多くの皆様に参考にしていただくために発行しております。 ●発行日:平成27年11月1日

あきた元気ムラ
応援サイトは

元気ムラ で検索

●Twitterアカウント→@akitagenkimura
●facebook→「あきた元気ムラ」



元気ムラサイトを
携帯電話・スマート
フォンで見たい方は
←こちらから!



第4回あきた元気ムラ大交流会を 由利本荘市で開催しました!

参加者人数

405名

秋田県内外から61団体、
17自治体の皆さんが
参加してくださいました

元気ムラ大交流会レポートその1

9月5日(土)、由利本荘市の総合体育館で「あきた元気ムラ大交流会2015」を開催しました。前身となる「元気ムラフォーラム」を平成23年に開催したのをきっかけに、翌年から「あきた元気ムラ大交流会」として県内各地で開催し、今年で4回目になります。今年は2部構成。第1部は県内各地で地域活動に取り組む団体の事例発表(次ページ)を、第2部は各地区自慢の一品を持ち寄ってもらい交流会を開催しました。



交流会では秋田県内24団体が自慢の一品を持参。



3つの会場に分かれて

地域づくりに取り組む団体の事例発表を行いました



第1会場テーマ

「地域間連携」



能代市のNPO法人常盤ときめき隊・佐々木松夫さん(左上)が同市・上町で開催している「日曜朝市」



の活動を発表。外の地域と協力して得られた体験を発表してもらいました。また、北秋田市・七日市地域からは、葛黒集落に伝わっていた小正月行事「火祭りかまくら」を、周辺集落や団体の協力を得て復活させた活動を、葛黒集落の堀部明博さん(右上)とおさる元気くらぶの長岐直介さん(右下)が発表しました。アドバイザーは大仙市まちづくり課の高橋靖弘さんをお願いしました。

第2会場テーマ

「収入源づくり」



元気ムラのGBビジネスに取り組む小阿仁村・南沢部落会の伊藤信義さん(左)と、仙北市・田沢地域運営体「荷葉」の千葉妙子さん(右)に活動を発表してもらい、アドバイザーは株式会社かねひろ代表取締役社長の土田博美さんをお願いしました。伊藤さんは地域で採れるミョウガ、クルマミ、栗などを首都圏のスーパーに出荷し、町内会活動の収入源にしている取組を、田沢の千葉さんは、地域の女性を中心となって結成した「わらび会」で首都圏に山菜・きのこを出荷している活動を発表しました。

第3会場テーマ

「企業と学生の連携」



(株)ヤマグチ(京都)営業部マネージャーの山口祐嗣さん(左)と学生団体ATMU!の川上勇介さん(右)がそれぞれの取組を発表。アドバイザーはNPO法人あきたパートナーシップの畠山順子さんをお願いしました。(株)ヤマグチは平成24年から由利本荘市・三ツ方森集落とわらび粉づくりを通じた交流・連携を行っています。また学生団体ATMU!は、「街歩き」「地域間交流」「地域財産の再発見」をテーマに、地域に根ざした活動を行う大学生グループ。地域と企業・学生の連携の可能性について発表してもらいました。

意見交換会の声

小正月行事の開催日やしきたりについて質問がありました。神事のため日時が固定されている小正月行事ですが、人が集まりやすい土日に行う地区も増えています。開催日を普通に固定するかどうか、各地区でも共通の課題になっているようです。

意見交換会の声

クルマミの割り方、虫の防除、雑草の処理や、「地元で販売したいものはあるが売り方が分からない。実際の収入はどれくらいか？初期投資は？」といった質問がありました。意見交換の場では質問する方も多く、皆さんの興味の高さを感じました。

意見交換会の声

「わらびの根はたくさんあるが、根の活用はしたことがなかった」という声も。発表者の山口さんからは「学生の力も借りながら根の採取を進めてもいいのでは」という提案もあり、今後の連携の可能性を感じさせる意見交換となりました。

大交流会を振り返って

大交流会は県内の元気ムラが一堂に会するイベントです。交流会を通じて顔なじみも増え「大交流会に行けばあの人と会える！」という楽しみを持ってきている方もいれば、初めて参加した地域からは「大変刺激を受けた」という声もいただきました。このように地域同士の交流のきっかけの場としてだけでなく、地域づくりに携わる方々が、やる気・元気が湧く場となるよう、スタッフ一同頑張りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

共通の問題意識があると分かった！

他の集落の人と、だんだん仲良くなれる。

(食材を出して)美味しいと言ってもらえて嬉しかった。

元気ムラ大交流会の参加者の声より



元気ムラ支援室からのお知らせ

11月イベント情報

秋の味覚満載！
美味しい
イベントです

能代市・鶴形地域

鶴形のそば祭り

あなたの「そば」で祭りだ！ワッショイ！In 鶴形パート12



今年で12年目を迎えた鶴形地域の「そば祭り」は地区の文化祭と一緒に開催。そばの早食い競争やそば打ち体験（申込必要）といった「鶴形そば」にちなんだイベント盛りだくさん！「そば食堂」ではなんと200円で鶴形そばを食べられます！

【会場】鶴形小学校体育館（住所：能代市宇町後16番地）

※JR奥羽本線 鶴形駅から歩いて2分

【お問合わせ】鶴形公民館（電話：0185-58-3211）

【開催日】

11月8日（日）

9:30～14:30

五城目町・馬場目杉沢地域

盆城庵秋まつり

古民家の佇まいと晩秋の五城目町の自然を満喫！



古民家・盆城庵を会場に秋まつりを開催。昔ながらのかまどで薪を使って炊いた“新米きりたんぼ”は格別の味♪イワナの炭火焼きに山菜市や民謡ライブなど。名所・ネコバリ岩まで車の送迎も行います！晩秋の里山で楽しい1日を過ごしませんか？

【会場】盆城庵（住所：五城目町馬場目字蛇喰27番地）

※馬場目地域活性化支援センターから車で25分

【お問合わせ】農家レストラン清流の森（電話：018-853-2577）

【開催日】

11月8日（日）

10:00～

あきた
元気ムラ

地域の元気 お届け マーケットを開催します!!

開催日時

11月28日（土）13:00～18:00

11月29日（日）9:30～15:30 ※予定

●会場：秋田駅東西連絡自由通路（ぼぼろーど）



元気ムラの味に触れるチャンスです。秋田駅周辺にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください♪

28日は17:00から
秋田駅前でイルミ
ネーション点灯式が
開催されます。

※28日から秋田市の
中心市街地（駅前・な
かいち等）でイルミ
ネーションのライトア
ップが行われます！

地域活動でお悩みがありましたら…

地域コミュニティサポート 窓口をご利用ください。

サポート窓口は全県の市町村に設置されています。「地域活動ヒント集」を活用し、地域づくり

のアドバイスや事例紹介、研修

先のコーディネートなど、地

域づくり活動のお手伝い

をいたしますので、

お近くの窓口を

ご利用ください。



～編集後記～

集落活動コーディネーターがゆく！

集落会館内の写真

鹿角市白欠集落にお邪魔した際、会館内の写真に目がとまりました。集合写真や活動写真に加え、住民一人一人のスナッパ写真も飾られていて地域の仲の良さを感じさせられたのです。湯沢市若畑の集落会館内にも同じような光景が！「賞状よりも写真が増えていく方がいいもんだな（笑）」と話すのは若畑の会長さん。写真をたくさん撮影しても、カメラのSDカードにデータが入ったまま……という方も多いのではないのでしょうか？ かくいう私もその一人（汗）。1枚でもプリントアウトして部屋に飾れば、写真も嬉しいかもしれませんよ♪

地域行事の
写真をアルバムに
まとめている地区も！



声

地域からのメッセージ Vol.8

三ツ方森産のわらび粉
100%で作ったわらび餅

元気な地域の
想いを発信！



わらびの根っこを
一緒に掘って
みませんか♪



由利本荘市

三ツ方森集落
猪股保さん、節子さん

5世帯7人が暮らす三ツ方森集落。平成22年、この小さな集落で、昔ながらの製法によるわらび粉作りがスタートしました。わらび粉は、わらびの“根っこ”から採れます。昔は県内各地で作られていましたが、今は作る地域もほとんど無くなってしまいました。

当初は気負わず「とりあえず作ってみようか」と、わらび粉作りの工程を調べることから始めました。「2人とも退職したばかりでタイミングが良かったのよ」と話すのは節子さん。活動を始めて6年、マスコミの取材や、わらび粉に興味を持つ地域・団体など「いろんな人が三ツ方森に来るようになって、人と人とのつながりが出来た」と保さんは話します。



根っこからわらび粉を
取り出す作業！

2人が県外に出かける機会も増えました。毎年東京で行う都市と農村の交流を目的とした「ファーム・エイド銀座」では、わらび粉をPR。一緒に参加した横手市増田の加工グループ「アップルファーム」とは、これが縁となり、春は三ツ方森に招いてわらび採り、秋は「蔵の日」に自分たちが増田に赴き、お互いの地区を行き来して親睦を深めています。

わらび粉作りで一番大変なのが、根を打ち碎

わらび粉作りから生まれた人の繋がりが

いてわらび粉を取り出す作業です。1日叩いても20kgの根から採れるわらび粉は1kgあるかどうか。視察にくる人もこの作業を「難儀だ」と感じる人が多いようです。この手間のかかる工程を含め、わらび粉作りを続けてこれた理由を「なんだかんだで面白かった」「周りの人たちが一生懸命応援してくれるから自分たちも納得いくものを作らなきゃ」と2人は話します。

わらび粉作りを通じ、県や市を始めとして、京都で和菓子等の原材料を取り扱う（株）ヤマグチ、NPO法人銀座ミツバチプロジェクトと交流・連携をするようになりました。ヤマグチのアドバイスを受けながら完成させたわらび粉は商品として扱える状態になりました。

「自分たちは2人で1人前。何をするにもどちらが欠けても活動できないから」と照れながら話す猪股ご夫妻。現在は稲刈りも終わり、わらびの根っこ掘りの真っ最中中です。今年の春は、わらび粉作りをスタートした年に根を掘った場所から若いわらびも生えてきました。「わらび粉を通して仲間が出来て、もっと交流していければ」と話す保さん。今年も三ツ方森のわらび粉作りがスタートしています。

※2015年10月8日にインタビューした内容を掲載しました。

●●●●● 三ツ方森集落の活動 ●●●●●

標高250mの場所に位置する集落。平成22年に開催した集落座談会の場で80代になるおばあちゃんの「昔、食べていたわらび餅をもう一度食べたい」という話がきっかけとなり、わらび餅づくりがスタート。この活動が年々注目を浴び、マスコミの取材や三ツ方森に視察に訪れる地域・団体も増えています。

元気ムラ支援室は「住民主体」の地域づくり活動を支援しています。

- 地域づくり活動事例の出前講座 ●GB(じっちゃん・ばっちゃん)ビジネスの支援
- 集落間交流のコーディネート など。お気軽にご相談ください。

こんな活動を
しています♪

お問い合わせ

●発行／秋田県 活力ある集落づくり支援室(元気ムラ支援室)

住所／〒010-8570 秋田県秋田市山王4丁目1-1

FAX／018-860-3875 E-mail kats@pref.akita.lg.jp

電話／018-860-1215